（別紙様式４）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年9月1日 ※1
（前回公表年月日：令和4年5月1日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
飯田コアカレッジ	昭和61年10月30日	牧島　晃	〒　395－0823 （住所）長野県飯田市松尾明7591 （電話）0265－22－5111
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人コア学園	昭和61年10月30日	田中　秀彦	〒　395－0823 （住所）長野県飯田市松尾明7591 （電話）0265－22－5111

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	ITスペシャリスト学科	平成25年文部科学省 告示第3号	－

学科の目的	各種業務に対応した応用プログラムの開発能力およびネットワーク管理技術等コンピュータスペシャリストとしての能力を修得する。
認定年月日	平成27年2月25日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,860 時間	500時間	1,360時間	0 時間	0 時間	0 時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
30人	45人	0人	4人	12人	16人

学期制度

■前期：4月1日～ 夏休み終了まで
■後期：夏休み明け～ 3月31日

成績評価

■成績表：　有
■成績評価の基準・方法
評価の基準：　80点以上優、70点以上良、50点以上可
評価の方法：　出席、課題、定期試験による総合評価

長期休み

■学年始：4月 1日～ 4月 5日
■夏　季：8月 9日～ 9月 8日
■冬　季：12月26日～ 1月10日
■学年末：3月 6日～ 3月31日

卒業・進級条件

卒業要件：
教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が卒業たるレベルにあると認められること
進級要件：
教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められること

学修支援等

■クラス担任制：　有
■個別相談・指導等の対応
教職員間で情報共有し、個人面談および保護者への連絡など、迅速な対応の実践

課外活動

■課外活動の種類
（例）学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等
ボランティア活動（地域住民対象パソコン教室）、スポーツ大会など
■サークル活動：　有

就職等の状況※2

■主な就職先、業界等（令和3年度卒業生）
製造業、情報処理サービス業、建設業、一般企業

■就職指導内容
職業観の養成を図り職業選択の自己決定を促すセミナーの開催や履歴書や面接等時機に合わせた支援

■卒業者数	20	人
■就職希望者数	19	人
■就職者数	19	人
■就職率	100	%
■卒業者に占める就職者の割合	95	%

■その他
1名は体調不良による家居

（令和　　3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）

主な学修成果（資格・検定等）※3

■国家資格・検定/その他・民間検定等
（令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	②	3人	3人
ITパスポート	②	7人	6人
情報検定情報活用試験1級	③	14人	9人
C言語プログラミング能力認定試験2級	③	8人	8人
C言語プログラミング能力認定試験3級	③	21人	13人
Javaプログラミング能力認定試験3級	③	19人	12人

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

■自由記述欄
（例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
上記検定以外にも個々の能力に合わせた資格取得を促し、段階的に知識と技術の習得ができるサポートを実践

中途退学の現状

■中途退学者　5 名　■中退率　11 %
令和3年4月1日時点において、在学45名（令和3年4月1日入学者を含む）
令和4年3月31日時点において、在学者40名（令和3年3月31日卒業者を含む）
■中途退学の主な理由
2名は体調不良、進路変更による退学。残り3名は早期就労

■中退防止・中退者支援のための取組
・担任や教科担当による情報共有により、早めに問題傾向に気付く体制を整えるとともに、学生に対する声掛けを実践することで、学生が相談しやすい環境をつくる。また、保護者との面談を積極的に行い対応していく。
・不登校傾向、人間関係の構築が苦手な学生に対して、クラス全体が一緒に卒業目指すことを意識できる雰囲気を、教職員が誘導するなど、積極的に支援をしていく。

経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 1名
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 0　受審年月： 0　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ 0
当該学科のホームページURL	https://iida.core-gakuen.com

（留意事項）
1．公表年月日（※1）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3．主な学修成果（※3）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

関係業界・企業、地元地域が求める知識・技術を教育課程に反映できるように、企業と連携し関係業界等の動向に関し情報交換を継続して実施し、教育課程編成時に取り入れて行くことにより、実践力を身に付けられる教育を行っていく。

毎年学校の夏期休暇時期に、卒業生の就職先企業を訪問し、卒業生の職場での評価や在学中に学んでおくべき内容・レベルを聞き、その内容を教科担当に伝えるとともに、シラバスに反映させる。また、教育課程編成時の課題として検討する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育運営規則第3条に則り設置し、企業等と連携し実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、学科ごとの教育課程を編成する。学科ごとの教育課程編成委員会で編成された教育課程を取りまとめ、学校評価及び改善策を加味して、カリキュラム検討委員会において最終的な学校全体の教育課程を決定する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名　前	所　　属	任期	種別
小池　秀一	株式会社アコーデックス　社長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	③
中島　智志	公益財団法人南信州・飯田産業センター オーガナイザー	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	①
野々口　弓恵	多摩川マイクロテップ株式会社	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	③
藤本　義隆	藤本電機管理事務所　所長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	③
牧島　　晃	飯田コアカレッジ　学校長		
遠山　千尋	飯田コアカレッジ　教頭		
福岡　将生	飯田コアカレッジ　ITスペシャリスト学科主任		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回　（9月、2月）

（開催日時（実績））

第1回　令和3年9月24日（金）16:00～17:00

第2回　令和4年2月18日（金）16:00～17:00

0

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1年次の小学生対象プログラミング教室は「自ら考え、課題に気づく」体験を通して、学生たちの自発的な活動を促したかったが、役割分担や、なにをすべきかを理解していない学生も多かった。ムトス（補助金）の申請・プレゼンという新たなタスクを通じて、全員が協力することの重要さに気づき、採択されたこともあって成功に結びつけることができた。また出張プログラミング教室も市内の小中学校から依頼されて開催、さらに自信を深める結果となった。

2年次の探求授業では、企業課題の解決に取り組んだが、課題の内容と学生の能力におおきな乖離がみられた。企業の担当者と打合せを重ねながら、自ら達成可能なゴールを調整すべきであったが、言うべき事が言えず、過大な期待を持たれたままプロジェクトが進んでしまったチームも見られた。最終的にはチーム毎に課題は残ったものの、課題解決のプロセスとしては学生たちの成長を評価して頂いた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
企業等との連携により、下記を実現する。
①企業等と連携した演習授業の実施について
　企業で必要とされている知識・技術および社会人としての言動を、現場で活躍されている方から直接指導を受けることにより、実務的な実践力を身に付ける。
②「卒業研究」の演習授業について
　企業等の業務で必要とされているシステムを、現場の要求に沿って、打合せを重ねながら制作をすることにより、コミュニケーション能力と実務に即した実践力を身に付ける。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
①企業連携したすべての科目において、その分野で実際に業務にあたっている社員を派遣してもらい、現場のトレンドを伝えてる授業を実施。作業工程の途中で仕事を想定して進捗状況の報告など、キャリア教育も実践している。また、教育の一環として、学生の学修成果の評価もしてもらう。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
製図の知識・3次元CAD	製図に関する専門知識（CADシステム・製図）とCADを利用した作図に必要な技能の習得。3次元CAD「SOLID WORKS」の基本操作と3次元モデルの製図技能の習得。また3Dプリンターを導入し、設計した物の造形工程も実践し、CADについての理解を深める。	多摩川テクノクリエイション株式会社 いいだクラフト株式会社
組込演習	製造現場で使用される設備を動かく仕組みについて理解する。また、自ら考えたプログラムで模擬装置を思い通りに動かす体験から技能の習得を図る。	多摩川マイクロテップ株式会社
探求学習（1）（2）	1年次は、ドローン等のツールを活用し、プログラミングやモノづくりに理解を深める。また、小学生対象にプログラミング教室を通して、社会人基礎力の向上を図る。また、2年次にはソリューションビジネスをテーマに、企業の課題を見出し、解決できるシステム構築の検討と仕事を想定したチーム作業により制作する。	南信州・飯田産業センター他連携企
Python・Raspberrypi	Pythonの使い方得生理解して簡単なアプリケーションを制作する、また、Raspberrypiとカメラを組み合わせて、Pythonでの制御を習得する。	株式会社SOLA
卒業研究	2年間の学習の集大成として、ソフトウェア開発などの研究を行なう。企業等で実際に必要とされているものや、業務等で使用されるような内容のものをテーマとして、要求内容をきちんと把握し開発・制作する。	令和3年度実績 ・株式会社協和精工 ・株式会社キンポーメルテック ・有限会社テクロン ・多摩川マイクロテップ株式会社 ・株式会社コシブ精密

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 教員として必要な知識・技術および指導力の向上を図るため、企業等と連携し、関連分野で高い技術力を持つ企業等から講師を招き研修会を開催する。また、企業見学から学生に求められるスキルの情報収集ならびに企業や職能団体等の実施する研修会に参加させることにより教員の資質向上を図る。 教員に対する研修等については、学校運営・教員養成の両面から計画的に実施していく。			
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員として必要な知識・技術および指導力の向上を図るため、企業等と連携し、関連分野で高い技術力を持つ企業等から講師を招き研修会を開催する。また、企業見学から学生に求められるスキルの情報収集ならびに企業や職能団体等の実施する研修会に参加させることにより教員の資質向上を図る。 教員に対する研修等については、学校運営・教員養成の両面から計画的に実施していく。			
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	ICTを利用した農業について	連携企業等：	地元農家
期間：	R3年5月	対象：	教職員ならびに学生
内容	地域の農業の現状を理解するとともに農家の抱える課題を抽出し、現在学んでいるITを活用した解決策についてワークショップにより探る。また、検討した解決策を実現できるように取り組む機会とする。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	飯田市の魅力と若い世代に期待すること	連携企業等：	飯田市長
期間：	R3年6月	対象：	学校長および常勤職員
内容	リニア中央新幹線や三遠南信道開通により大きく変貌する飯田市について、具体的な行政の取り組みに理解を深める。また、学生たちが地域の活性化や情報発信にどのように関わっていけるのかを考える機会とする。		
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	ICTを活用した身近な問題解決について	連携企業等：	モノつくり企業
期間：	R3年5月	対象：	教職員ならびに学生
内容	IT企業の現状を知り、必要な知識や技能を知るとともに、現在学んでいることが企業でどのように活用できるかを探る。また、企業の抱える課題についての解決策をワークショップで検討した。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	「南信州エリア活性化の取り組みと、若い世代に期待すること	連携企業等：	飯田市長
期間：	R3年6月	対象：	教職員ならびに学生
内容	リニア中央新幹線や三遠南信道開通により大きく変貌する飯田市について、具体的な行政の取り組みに理解を深める。また、学生たちが地域の活性化や情報発信にどのように関わっていけるのかを考える機会とする。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校の現状や取り組み内容が理解されるよう十分な情報提供を行なって、企業の方を含めた学外の関係者の方々から広く意見を聞き、継続的に改善点等を教育活動・学校運営等に反映させていき、地域に根差したよりよい学校を目指していく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
(2)学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか
(3)教育活動	①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されてい
(4)学修成果	①就職率の向上が図られているか
(5)学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されてい
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか
(8)財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献をおこなって
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

① 新卒者の離職率が高い要因として、自分が考えていた仕事内容と違っていた。ということがあることを踏まえ、就職後の離職を減らすために、次のことに取り組んでいくことにした。

・アンマッチを減らすため、就職希望者全員が企業訪問・見学を必ず行うこととし、可能な限り職場体験をさせていただくよう、学校から積極的に企業にお願いしている。また就職時の人間関係も重要な要因であることも指摘を受け、対応を進めていく。

② 教育理念を含めて教職員のスキルアップが課題である点については、一朝一夕で達成できる問題ではないので、地道に取り組んでいくことにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
熊谷　克利	信菱電気株式会社　総務部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	企業等委員
矢崎　孝弘	株式会社矢崎製作所　代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日	企業等委員
木下　浩文	みなみ信州農業協同組合　総務企画部人事教育課　課長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	企業等委員
福澤　栄二	飯田商工会議所　専務理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日	商工業団体
鎌倉　正	飯田市企画部デジタル推進課　課長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	地方公共団体
有馬　乃	飯田女子高等学校　校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	高校校長
上沼　章	みなみ信州農業協同組合　金融共済部	令和4年4月1日～令和6年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他(　　))

URL:　https://iida.core-gakuen.com

公表時期:　44818

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

連携企業等に、本校の取り組み内容や現状についての情報提供を十分行うことで、本校に対する理解を深めてもらい、課題や問題点の指摘やアドバイスを受けやすいようにする。また、協力や支援を受けられる体制作りを構築し、さらに地域に根差した学校づくりを進める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育方針、教育理念、沿革、本校の特色
(2)各学科等の教育	修業年限、定員数、カリキュラム(主な科目と概要)、資格取得、卒業者
(3)教職員	組織図、教職員体制
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育(職業観養成プログラム)の取り組み状況、産学連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況・教育施設・設備
(6)学生の生活支援	就職支援、修学支援
(7)学生納付金・修学支援	活用できる就学支援措置等
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))

URL: https://iida.core-gakuen.com

公表時期: 44818

授業科目等の概要

	（工業専門課程ITスペシャリスト学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1		○		公務員試験対策（選択）	公務員の採用試験を希望する学生が、過去の問題から試験の傾向を理解し、合格に向けた対策を行う	2年前期	28		○			○			○	
2	○			キャリアデザインⅠ（職業観の養成）	自己理解を深め、自らのキャリアビジョンを自己決定する	1年通年	30		○			○		○		
3	○			キャリアデザインⅠ（文書力養成）	小論文および実社会における文書読解・作成能力を養成する。	1年通年	30		○			○		○		
4	○			ビジネス能力検定対策	社会人にとって不可欠なビジネス知識および社会常識を習得する	1年通年	60		○			○			○	
5	○			ペン字Ⅰ	はがきや手紙の文章をきれいに書くコツを習得し、実生活で生かせるようにする	1年前期	28			○		○			○	
6	○			ペン字Ⅱ	はがきや手紙の文章をきれいに書くコツを習得し、実生活で生かせるようにする	2年前期	28			○		○			○	
7	○			SPI（就職試験対策）	自身が希望する採用試験に備えて、SPI問題の対策を行う	2年前期	28		○			○			○	
8	○			ビジネス実務マナー	社会人にとって不可欠なビジネス知識とマナーを身につける	1年後期	32		○			○			○	
9	○			ITリテラシー	情報モラルやセキュリティについての知識を深め、情報化社会に対応できる知識と技能の習得	1年前期	28		○			○			○	
10	○			ITパスポート	様々な業界・職種においても必要不可欠な「ITと経営に関する総合的な知識」を身につける	1年通年	60		○			○		○		
11	○			検定対策Ⅰ	目標達成するための計画と実践を通して、社会人基礎力の向上を図る	1年通年	60			○		○		○		

12	○			検定対策Ⅱ	目標達成するための計画と実践を通して、社会人基礎力の向上を図る	2年通年	60			○		○		○		
13	○			Office 基 礎（Word）	就職後業務に活かせるMicrosoft Officeのスキルを身につける	1年通年	60			○		○		○		
14	○			Office 基 礎（Excel）	就職後業務に活かせるMicrosoft Officeのスキルを身につける	1年通年	120			○		○		○		
15	○			Office 応 用（Word）	就職後業務に活かせるMicrosoft Officeのスキルを身につける	2年通年	60			○		○		○		
16	○			Office 応 用（Excel）	就職後業務に活かせるMicrosoft Officeのスキルを身につける	2年通年	120			○		○		○		
17	○			インターンシップ/検定対策	地元企業に理解を深め、自らのキャリアビジョンと職業観の向上を図る	1年後期	32			○		○		○		
18	○			アルゴリズムⅠ	プログラマー業務に必要不可欠な、プログラム作成の際に基礎となるロジック的な思考を身につける	1年前期	56			○		○			○	
19	○			アルゴリズムⅡ	プログラマー業務に必要不可欠な、プログラム作成の際に基礎となるロジック的な思考を身につける	1年後期	32		○			○			○	
20	○			C言語基礎	汎用性が高く、組み込みやソフトウェア開発等多くの分野で用いられるC言語の学習を通して、自らの適性を判断する機会とする	1年前期	56			○		○			○	
21	○			C言語応用	既存プログラムの修正依頼に対応できる技能の習得	1年後期	64			○		○			○	
22	○			C#基礎・演習	C言語、C#を使ったアプリケーションの開発を検討できる知識と技能の習得	2年前期	84			○		○			○	
23	○			Python基礎・演習	今後必要とされるであろうプログラミング言語を習得することで、キャリアをより豊かにすること	2年前期	56			○		○			○	○
24	○			Raspberrypi	電子工作との親和性の高いRaspberrypiを用いて、LEDやモーターなどの制御について知識と技能を習得する	2年後期	64			○		○			○	○
25	○			Java基礎・演習	オブジェクト指向のプログラミングの基礎を学び、キャリアの幅を広げるための学習	2年後期	64			○		○			○	
26	○			Excelマクロ基礎・演習	業務の効率化に向けた実践的な技能の習得	1年後期	64			○		○		○		
27		○		ネットワーク演習	ＤＸ化を見据えたネットワークの基礎知識の習得	2年前期	28		○			○			○	

28	○			基本情報技術者試験対策	ＤＸ化を見据えた現代社会にこたえられる知識の習得	2年前期	56		○			○			○	
29	○			QC検定対策	組織での業務推進において、品質管理の基本を含めて企業活動の管理・改善活動のスキル習得	2年通年	120		○			○		○		
30	○			組込演習（電気の知識／シーケンス）	製造現場で使用される設備を動かす仕組みについて理解を深める	1年前期	56			○		○			○	○
31	○			組込演習（電気の知識／シーケンス）	製造現場で使用される設備を動かす仕組みについて理解を深める	1年後期	64			○		○			○	○
32	○			生産管理入門	主に製造業おける、計画から出荷までの生産活動全体を統制するフレームワークを学ぶ	2年前期	56		○			○		○		
33	○			Web応用Ⅰ	WEBサイトの仕組みや構造を理解しWEBサイトのクライアント側と呼ばれる部分の制作に求められる知識と技術を習得する	1年通年	60			○		○			○	○
34	○			Web応用Ⅱ	WEBサイトの仕組みや構造を理解しWEBサイトのサーバ側と呼ばれる部分の制作に求められる知識と技術を習得する	2年通年	60		○			○			○	○
35	○			製図の知識	JIS規格や製図の際のルール、知的財産についてなど、基本的な知識を習得する	1年前期	28			○		○			○	○
36	○			3次元CAD（SOLIDWORKS）	設計び必要不可欠なを3次元CAD（SOLIDWORKS）を用いて、モノづくりへの関心を持つ	1年後期	32			○		○			○	○
37	○			3次元CAD（FUSION360）	設計び必要不可欠なを3次元CAD（FUSION360）を用いて、モノづくりへの関心を持つ	1年後期	32			○		○			○	○
38	○			造形入門（3Dプリンター）	３Dプリンターを用いて、3次元CADから造形までの工程を学び、モノづくりへの関心を持つ	2年前期	56			○		○			○	○
39	○			動画入門	学んだ全学生が後期の探求学習の題材である「NEXT南信州COLLECTION」で動画編集ができるように、動画編集の基礎を学ぶ	1年前期	56			○		○		○		
40	○			CG基礎・演習	キャリアビジョンの視野を広げるスキルとして、コンピュータグラフィックの基礎を学ぶ	1年後期	32			○		○			○	

41	○			Access基礎・演習	小規模なデータベースを構築し、業務の効率化を図る技能を習得	2年後期	64			○		○		○		
42	○			PowerPoint基礎・演習	ビジネスシーンにおけるプレゼンテーション資料の効率的な作成方法の習得	1年後期	32			○		○		○		
43	○			探求学習（ムトスプログラミング教室）	チーム作業を通して社会人基礎力を醸成し、ホウ・レン・ソウやPDCAサイクルを実践的に学ぶ	1年前期	28			○		○			○	
44	○			探求学習（NEXT南信州COLLECTION）	チーム作業を通して社会人基礎力を醸成し、ホウ・レン・ソウやPDCAサイクルを実践的に学ぶ	1年後期	64			○		○		○		
45	○			探求学習（ｿﾘｭｰｼｮﾝビジネス）	チーム作業を通して社会人基礎力を醸成し、ホウ・レン・ソウやPDCAサイクルを実践的に学ぶ	2年通年	120			○		○		○	○	○
46	○			探求学習（農業×IT）	チーム作業を通して社会人基礎力を醸成し、ホウ・レン・ソウやPDCAサイクルを実践的に学ぶ	2年通年	120			○		○			○	
47	○			卒業研究	2年間の学習の集大成として、学んだことを活用した成果のまとめ	2年後期	64			○		○		○		
合計					47　科目									1860 単位（単位時間）		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が卒業たるレベ	１学年の学期区分	2 期
履修方法： 講義、演習	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。